

## 別紙2

## 三重県 中央会情報連絡員報告総括表 ( 令和7年10月 )

情報連絡員数	40	名	回答者数	40	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製造業	食料品	0	4	0	0	3	1	2	2	0	0	3	1	0	3	1	0	3	1	0	3	1	1	3	0	0	2	2
	繊維工業	0	1	2	0	2	1	2	1	0	0	3	0	0	1	2	0	1	2	0	3	0	1	2	0	0	1	2
	木材・木製品	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	紙・紙加工品	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	印刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	0	3	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0
	鉄鋼・金属	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	一般機器	0	1	2	2	1	0	2	1	0	0	3	0	0	1	2	0	1	2	0	2	1	0	3	0	0	2	1
	電気機器	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	輸送機器	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
	その他																											
小計		2	11	7	3	12	5	9	11	0	0	18	2	2	10	8	0	14	6	1	14	5	2	16	2	0	12	8
非製造業	卸売業	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0				0	2	0	0	2	0
	小売業	1	4	1	0	6	0	2	4	0	0	4	2	0	4	2	0	4	2				0	6	0	0	4	2
	商店街	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	1	0
	サービス業	1	3	0				0	4	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1				1	3	0	0	3	1
	建設業	1	3	0				0	4	0	1	3	0	1	3	0	1	3	0				0	4	0	1	3	0
	運輸業	0	1	0				1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	1	0
	その他	1	1	0				0	2	0	0	2	0	1	1	0	0	2	0				0	2	0	0	2	0
小計		4	15	1	0	9	0	4	16	0	1	17	2	2	14	4	1	16	3				1	19	0	1	16	3
合計		6	26	8	3	21	5	13	27	0	1	35	4	4	24	12	1	30	9	1	14	5	3	35	2	1	28	11

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和6年10月～令和7年10月)

三重県中小企業団体中央会

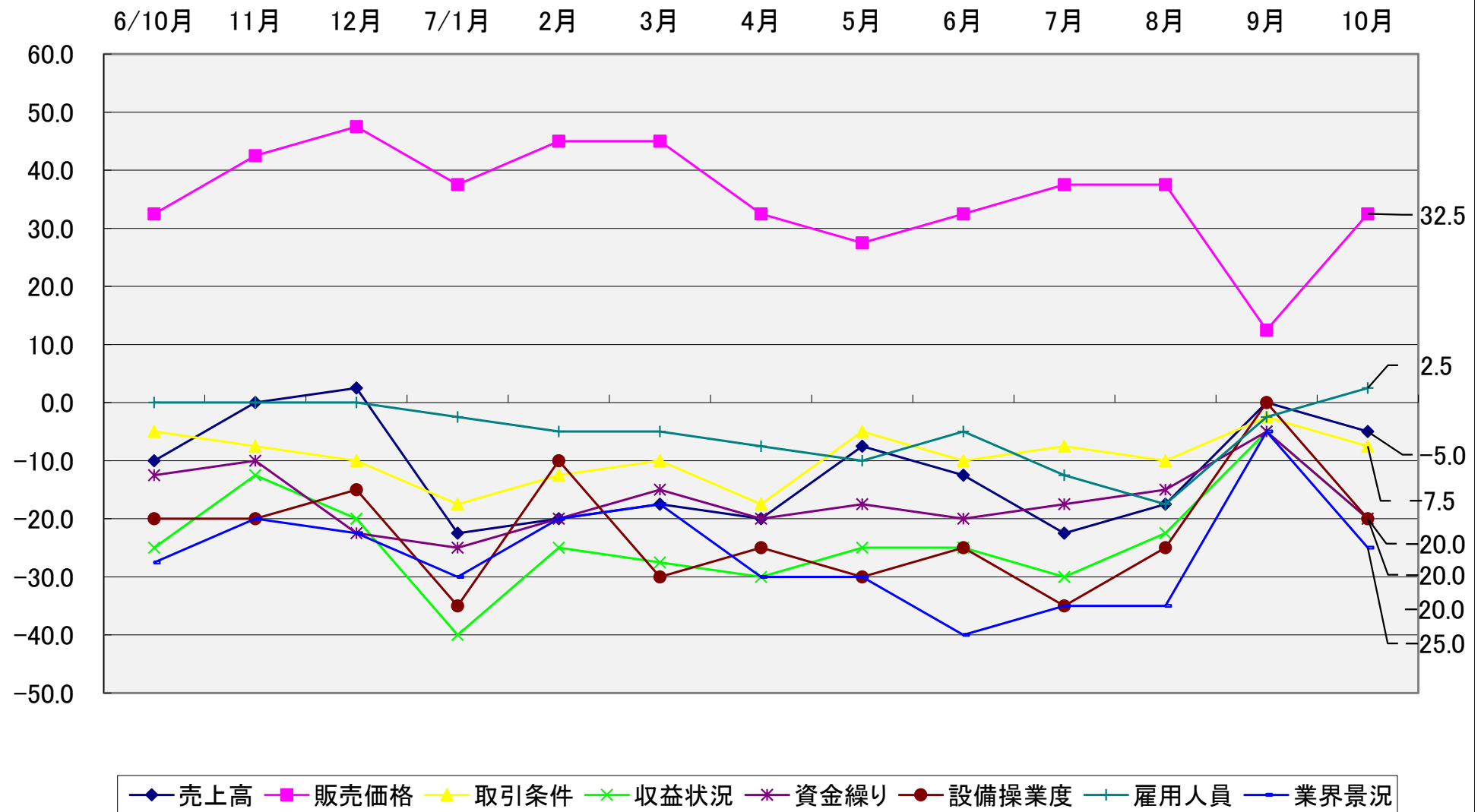
連絡員総数 40 名

	6/10月	11月	12月	7/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
売上高	-10.0	0.0	2.5	-22.5	-20.0	-17.5	-20.0	-7.5	-12.5	-22.5	-17.5	0.0	-5.0	-5.0
販売価格	32.5	42.5	47.5	37.5	45.0	45.0	32.5	27.5	32.5	37.5	37.5	12.5	32.5	20.0
取引条件	-5.0	-7.5	-10.0	-17.5	-12.5	-10.0	-17.5	-5.0	-10.0	-7.5	-10.0	-2.5	-7.5	-5.0
収益状況	-25.0	-12.5	-20.0	-40.0	-25.0	-27.5	-30.0	-25.0	-25.0	-30.0	-22.5	-5.0	-20.0	-15.0
資金繰り	-12.5	-10.0	-22.5	-25.0	-20.0	-15.0	-20.0	-17.5	-20.0	-17.5	-15.0	-5.0	-20.0	-15.0
設備操業度	-20.0	-20.0	-15.0	-35.0	-10.0	-30.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-25.0	0.0	-20.0	-20.0
雇用人員	0.0	0.0	0.0	-2.5	-5.0	-5.0	-7.5	-10.0	-5.0	-12.5	-17.5	-2.5	2.5	5.0
業界景況	-27.5	-20.0	-22.5	-30.0	-20.0	-17.5	-30.0	-30.0	-40.0	-35.0	-35.0	-5.0	-25.0	-20.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする

企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



## 情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりが、経営を圧迫する状態が続いている。昨年から米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それにつれて漬物の消費も伸び悩んでいる。一方で夏から秋にかけての高温乾燥の影響により、秋野菜の初期生育に影響が出ており、秋の原料不足が懸念されている。
		醤油味噌	10月は組合員企業の売出催事があり、各企業とも直接消費者に販売する機会となった。また、売り上げも良かった。仕込みの時期となり忙しい時期を迎えている。令和7年度の新米が本格的に店頭に出回り始めたが、価格は相変わらず高値が続いている。米の生産に関し、石破政権時は増産の方針だったが、政権が代わり農林水産大臣が交代すると増産体制から一転、減算方針へと舵を切った。政府のコメ政策の方針転換により、加工用米を必要とする味噌の生産者は不安な気持ちである。
		他に分類されない食料品 製造業	103万の年収の壁は取り払われたが、社会保険の会社負担分と有給休暇残業など問題は尽きない。乗り越えなくてはならない。
		製麺	11月28日の毎年1回の試食会を開催する（伊勢うどん）。それぞれの企業様に商品を提供してもらい開催する。商品のレベルアップ並びに伊勢うどんの発展につなげていきたい。また、全国の組合組織でもある全国製麺組合連合会の大会が11月4日に長崎で開催される。
	繊維工業	衣料縫製	夏の猛暑により秋物の生産が無くなり、暖冬の可能性もあり冬物の生産も少ない。受注から生産短期間になりつつある。
	木材・木製品	木材	春以降続いていた建築基準法改正による建築確認業務の停滞も正常化してきているが他の建設コストの高騰等で新設住宅着工戸数は不振が続く、国産材製品の荷動きも低調で人件費や配送料等のコスト高騰等もあり、依然として厳しい経営環境が続いている。
		木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。また、従業員の確保が困難である。
	紙・紙加工品	古紙	11月の仕入れ量は段ボール・約91±4%位、新聞、チラシ・約89±5%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±7%位になる。段ボール原紙の値上げの発表後も一向に進めない。最低賃金上昇も物価高に押され気味か、消費者人口の減少のためか、消費の動きが遅く、新しい内閣の推進力と方向性で早い時期に、年内中に上方気運になってほしい。製紙会社の発注量は減少傾向であり製品原紙や古紙の輸出も一時的に同じだが、紙は文化のバロメーターと言う事は未だであると考えており、中国国内での原紙や古紙が高騰している情報等もありアジア圏も生産人口の増加と経済的に文化的に上昇傾向にある中で市場価格の仕手戦の様相の様に感じる。ゴミ等の置き去りや古紙や古着の持ち去りの行為も無くならず、より人に優しいより良い社会づくりの為に政治家・政党・関連各所様に法律制定と執行を望みながら、更なる御尽力をお願いしたい。
	印刷	印刷	当組合が県より受託した三重県民手帳を10月10日（金）に発売し、同日、三重県庁ロビーにて販売を行った。当日は知事、庁内に務める職員、またSNSで告知をしていたこともあり、一般のお客さま等にご購入いただく機会となった。発売にあたり、新聞媒体（読売・毎日・中日）と取り上げられ販売において多くの方が知る機会となった。
	窯業・土石製品	伊賀焼	円安、物価高などの経済的影響でこれからどうなるかが不安であるが、回復することを期待する。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、引き続き堅調な状況である。中心は自動車車載部品関係で、EV関連の受注が相変わらず好調であり、少なくとも年内は安定した業況が見込まれる。
	一般機器	四日市市	組合員の業況としては先月までと大きく変わったような話は聞けていない、業界全体が様子見の状況はまだ続いているように思われる。8月以降引き合いとしては増えたように実感するが、決定には至っていない案件が多い。
		津市	昨年より部品単価は上がっているが、売上高は変わらないため、実質減少している。特に自動車部品の売上は勢いが無く伸び悩んでいる。稼働率は悪くなっているが人手不足というのもあるため、採用に苦慮している状況である。
		伊勢市	景況は少しずつ良くなってきた。注文が増え売上も少し良くなった。底を這っていたのが上向きに転じた。自動車も工作機械の関係も受注が増えて収益状況は改善している。このまま進み長い間の先行き不透明な期間を脱し、明るくなることに期待している。
	電気機器	鳥羽市	重要な取引先メーカーが11月末で廃業と連絡があり、頭が真っ白になっている。これからの製造はどう苦難を乗り越えればいいのかわからない。受発注も伸びが無く80%の稼働で推移している。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
輸送機器	伊勢市	受注は一般機械器具では昨年比増加、物量改善により、採算面も前年比好転、利益計上。しかし、全体的でなく、製品ごとの差が大きく、少量多品種での対応は増加、利益率は改善無し。自動車部品は昨年比同程度、若干の安定がみられる。また、新規部品で売上増加している面もあるが、既存品は今後減少傾向は変わらない。
小売業	青果	（野菜前半）果菜・葉菜も高値が続いていたが長野産ハクサイの出荷ピークが近づきお買い得に。ダイコンもお値打ちになっている。ミニトマト・トマト・胡瓜も安くなってきた。徳島産サツマイモは出荷が増え価格も落ち着いている。北海道産タマネギ・ジャガイモは作況が思わしくなく高値になった。（野菜後半）入荷が増えて全体的にお値打ちになっているが冬の料理に使われるネギ・キノコ類・ハクサイは需要が高まり活発に取引されている。キャベツは愛知産の出荷が増えて値下りしてきた。キュウリ・ブロッコリー・レタスはやや入荷が少なく高値にレンコンが旬を迎え12月にかけてが最盛期である。価格は昨年並みとなっている。（果物前半）和歌山産刀根柿が最盛期になり今が食べ頃、青森産リンゴ、長野産の品種のいろいろな味が楽しめる。長野産シャインマスカットは今が最盛期でお買い得になっている。県内産極早生みかんが最盛期に、糖度と酸味のバランスが良く美味。価格は昨年より多少高値である。（果物後半）リンゴは長野産ミナノスイート、青森産早生ふじがピークを迎えている。柿は種なしに加え県内産次郎柿の入荷も増えてきた。長野産シャインマスカットは終盤になってきたが、まだまだ人気である。山形産ラ・フランスの入荷も増えてきた。
	自転車	物価高騰が進む中、10月から家計負担がさらに重くなり、食料及び飲料は半年ぶりに3000品目を超える値上がりとなり、電気・ガス料金の政府補助も終了した。我々自転車業界においても各部品の値上げは続いており、修理・部品交換の値上げ分をその都度ユーザーに説明しなければならない状況となっている。また、新車販売も相変わらずストップの状態が続き、11月発表の2026年度通学車新商品の早期展示も各ショップは見合わせている状況である。組合活動として、10月16日に研修会を開催した。（1）自転車関連事故及び交通事故の発生状況、（2）自転車に関する今後の法改正（2026年4月より青切符導入）についてをテーマに三重県警察・交通企画課による現在の状況の説明があった。
	電器	夏の猛暑も徐々に落ち着きを見せ、エアコンや冷蔵庫といった販売や工事関連もおさまってきた。商品の販売具合は例年通りに動きは少なめだが、今年は過ごしやすい秋の雰囲気が一気に冬モードになりそうな感じで、年末に向けての構えと県の省エネ家電キャンペーンを活用しながら商戦を進めていなければならない。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	石油	ガソリン暫定税率廃止の議論が大詰めを迎えている。全国石油商業組合連合会としては、2008年4月の1カ月だけ暫定税率が失効したときの店頭混乱とSSが被った損害を再び引き起こしてはならないと、与党や資源エネルギー庁に繰り返し、ソフトランディングを訴えてきたが、いよいよ自民党と維新による新たな与党の枠組みが決まったことで、近く廃止に向けた日程が明らかになる。そうした中、わが業界がいまだ懸念する要素が2つ残っている。一つは暫定税率廃止に伴う価格の引き下げ幅が消費者に十分理解されていないのではないかと懸念である。マスコミ報道で繰り返し紹介されているため消費者には暫定税率は25.1円という事実が浸透している。しかし、価格の高騰を抑えるため10円の定額補助金が適用されていることは中々報道されず、結果、実際に下がる価格は15.1円だが、顧客からは「もっと下がるはずではないか？」などSSが下げ惜しみをしていると批判される懸念がある。
	スポーツ	我々スポーツ店は県内の小・中・高校に体操服等を販売しているが、近年の少子化の影響で閉校や合併が進んでいる。各組合員の売上に多大な影響がある。
商店街	熊野市	毎月第4日曜日に開催される商店街での朝市イベントが今月より始まった。今月は残念ながら雨天の為、出店料無料の自由出店にて開催された。残念ながら出店数も少なく寂しい中での開催ではあったが、1000円で1200円分のお買い物ができる商品券は販売されていたため、出店舗の売り上げは概ねよかったとの事である。来年3月まで、「さんま祭り」など毎月趣向を凝らしたイベントをからめて開催される。
サービス業	旅館	長く続いたコロナ禍にあっても補償金、助成金等の支給によって持ちこたえていた。小規模旅館が夏休みの業績も低迷していたため、休業や廃業する旅館が各地で出てきたことは大変残念である。地域力の弱体化は避けられない状況になっている。10月の業績については、3連休はどこにもぎわっていたようで万博も終わり近くなって、ツアー、団体客も少しずつ増加している。
	警備	例年のとおりこの時期は受注が増えてきて、退院の不足に悩んでいる。これから来年3月の年度末にかけて隊員不足で苦勞することになる。
建設業	総合工事業	2025年9月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べてほぼ同額となっている。内訳でみると、国、県で増となっている。4月から9月までの上半期の累計では20%増加、ネクスコなどの独立行政法人は減少している者の国・県・市町では増加の状況である。
	内装工事業	10月は対前年同月比で増加となった。ただし、物価高による原材料価格の高騰により建築関係の受注は思ったほど良くない。新しい政策が今後の国内需要を喚起していくかにかかっている。
	水道工事業（亀山市）	亀山市発注工事の発注も終わり、工事の発注量、受注高も減少傾向となっている。また、亀山市から漏水修理の件数も減少傾向となっている。民間工事についても、件数はあるが売上高は減少となっている。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	先日、最低賃金の上昇で補助金の説明があるとのFAXが届いた。興味があり参加を申し込んだが何の音沙汰もなく電話も通じなかった。詐欺だったのだろうか。気を付けなければならない。
一般機器	四日市市	ガソリンの暫定税率の年内廃止の決定は良かった、支出の低減で収支が改善されることが期待できる。材料費の高騰はまだ今後も続くと思われ、製品への価格転嫁と支出の低減が改善される施策を望んでいる。
建設業	総合工事業	資材価格の上昇や労務賃金の上昇傾向はやや弱まりつつあるものの、今後も上昇傾向は続く見通しであるが経営上の最も大きい問題は引き続きであるが人手不足である。
サービス業	旅館	物価上昇、賃金アップ、人手不足等により事業環境は厳しく、物価対策、金融支援、需要喚起策を早急をお願いしたい。